

経営比較分析表（平成28年度決算）

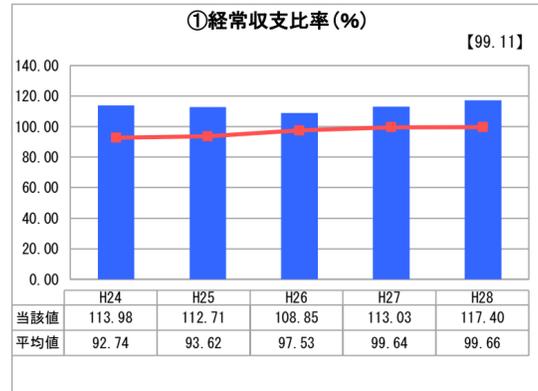
兵庫県 神河町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	59.78	24.97	100.00	4,485

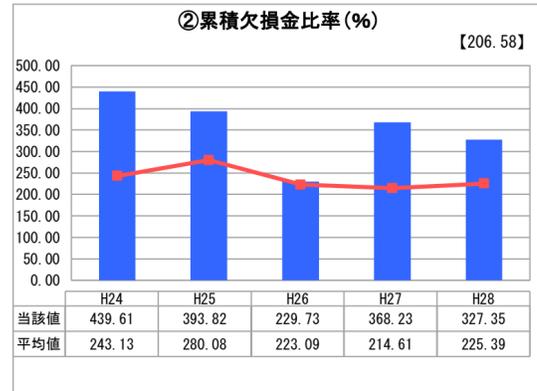
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
11,855	202.23	58.62
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,927	1.71	1,711.70

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【】	平成28年度全国平均

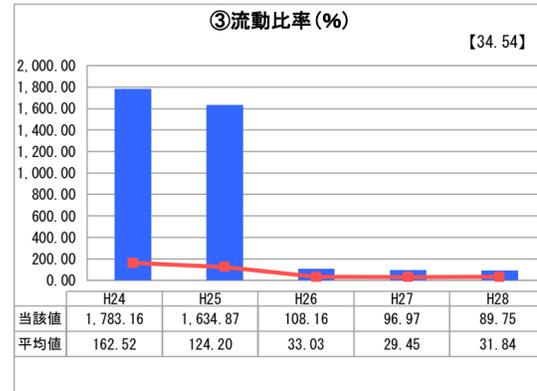
1. 経営の健全性・効率性



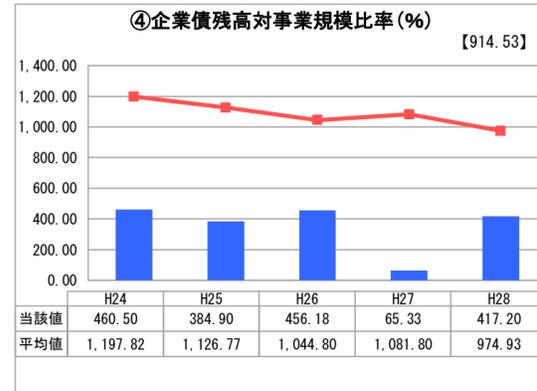
「経常損益」



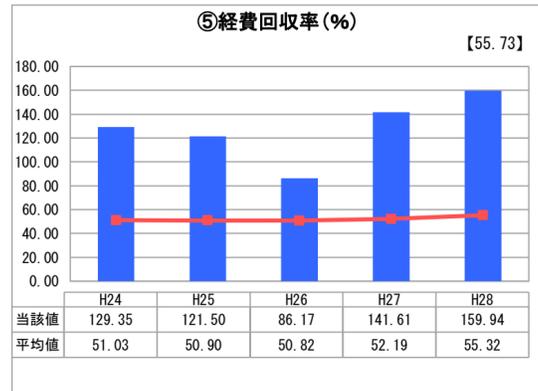
「累積欠損」



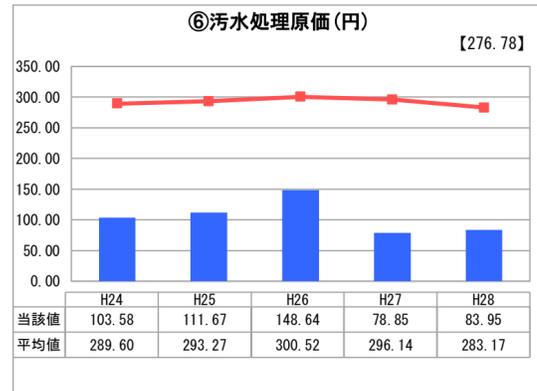
「支払能力」



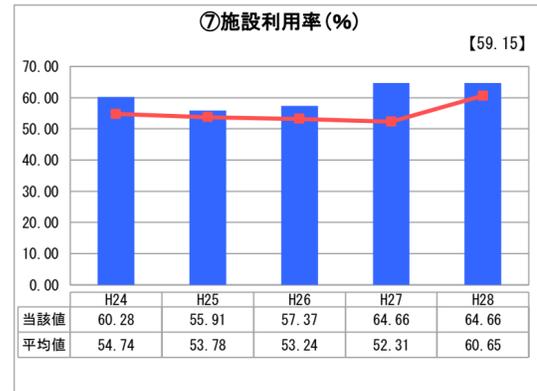
「債務残高」



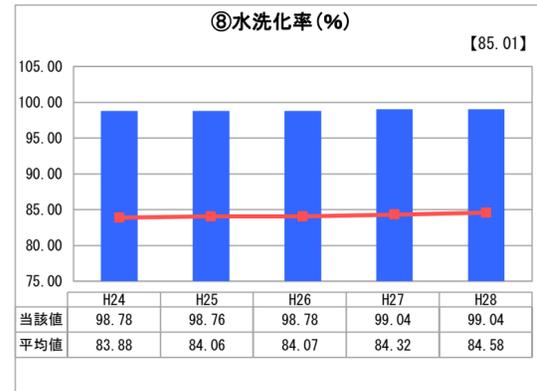
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

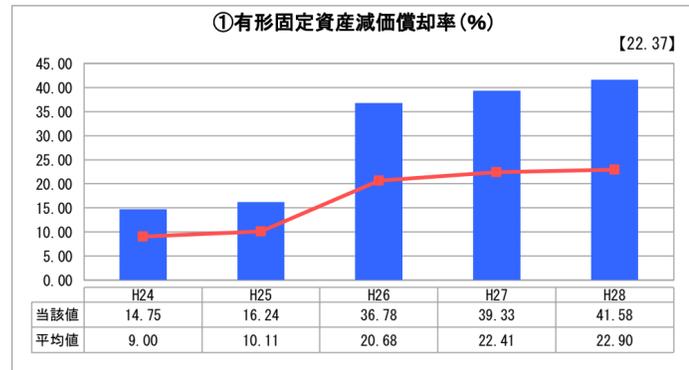


「施設の効率性」

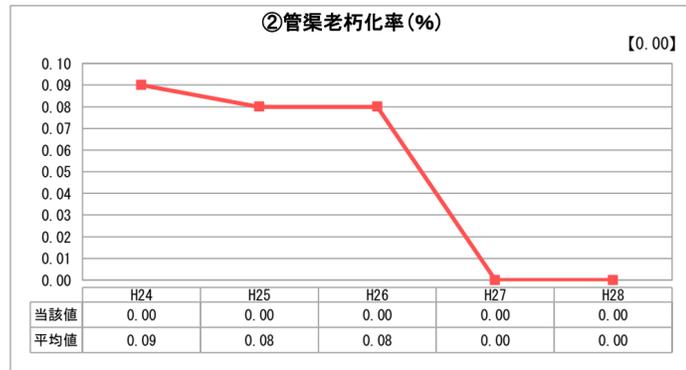


「使用料対象の捕捉」

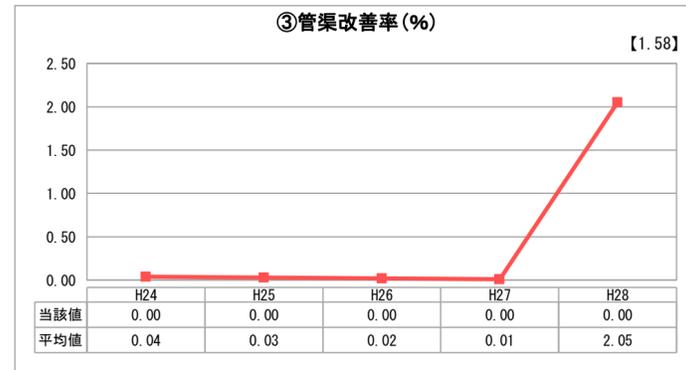
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は平成23年度から6年連続黒字を維持している。しかし、一般会計からの繰入金に依存した運営であり、使用料収入は減少傾向にある。現在のところ、使用料は従量制でなく人頭制を採用しており、水道料金とともに県内でも高額なので値上げは難しい状況にあるが、従量制への移行と併せて検討していく必要がある。

累積欠損金比率は26年度において一般会計からの繰入金の一部を営業収益に計上していたため減少したようになっているが、今なお多額の欠損金が残っている。今後、資本費平準化債の償還額が増えてくるので、引き続き経営健全化に努めていく。

2. 老朽化の状況について

管渠では管路には特に問題はないが、マンホールポンプ、中継ポンプの機械装置修繕が多くなっている。処理場においてもポンプやモーターなどの機械装置修繕が多くなっている。

全体総括

現在、施設の統廃合計画の策定中で、5箇所ある処理場のうち1箇所を特環公共下水道処理場に統合する予定である。

給水収益の減少や施設の老朽化に伴う修繕費の増大など厳しい経営が見込まれるが、維持管理費の削減などさらなる経営改善に努めていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
 ※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。